

平成21年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900694	事業の開始年月日	平成11年10月1日	
		指定年月日	平成11年10月1日	
法人名	社会福祉法人 心の会			
事業所名	高齢者グループホームさくらの家一番館			
所在地	(238-0026) 神奈川県横須賀市小矢部4-17-4			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年6月10日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1471900694&SCD=320
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>さくらの家一番館は衣笠山の中の中腹の団地の閑静な住宅地にあり、季節折り折りの景色を楽しめる環境にあります。特に春は桜の名所として、秋は紅葉がとてもきれいです。入居者様はこの恵まれた自然の中で毎日の様に散歩をして、景色を楽しみながらゆっくりと生活を送っています。さくらの家は二番館・三番館が同じ団地内にあり、入居者様同士の交流も盛んに行われ、合同の行事などで楽しむ事ができます。地域にとっても良く根付いていて、近隣の方々の協力を得てのバザーや夕涼み会などの地域と協力した行事なども行われています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-4 ケゲスマファースト 3階		
訪問調査日	平成22年1月21日	評価機関 評価決定日	平成22年4月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、開設後10年を経た運営経験豊かなホームで、桜の名所衣笠山の近くの自然に恵まれた環境にあります。「個人の尊重、自分の家と同じようなごく普通の暮らし、地域との関わりを大切に」を理念に、利用者が日々笑顔で楽しく自分らしく生活できるよう個々の生活ペースに合わせたケアを行っています。利用者は80代～90代ですが、皆さん、身だしなみも整え、会話ははずんで楽しく過ごされている様子が伺えます。</p> <p>運営法人、地域、ホームの三者の連携が良いため、利用者は当ホーム以外の多くの人との交流及び外出の機会を持てる環境にあり、生き生きとした生活を送ることが出来ています。</p> <p>運営法人は、地域の中で福祉活動を行うボランティア団体より社会福祉法人を立ち上げ、20年来地域に根ざした活動をしてきた歴史があり、地域の方々との交流も盛んです。散歩時等日常的な触れ合いはもとより、バザーや衣笠山桜祭りでの模擬店出店等のホーム行事への協力やボランティアとしての来訪、中・高校生の職業体験の受入れ、家族介護教室等を通じて地域との良好な関係が築かれています。</p> <p>法人本部では、法人が運営している事業所全体の会議も定期的に関いて提供しているサービスの検討を常に行い、また、パートも含めた全職員に研修の機会を設けて人材育成にも積極的に取り組んでおり、利用者へのサービスの向上と運営改善に努めています。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	高齢者グループホームさくらの家一番館
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊重・自分の家と同じような、ごく普通の暮らし・地域との関わりを大切に」を事業所独自の理念としている。職員には、入職時より、理念についての説明を行っており、各自がポケットサイズに縮小した理念を携帯し、理念の共有をしている。職員は買物・散歩・近隣との交流などを理念に沿って実施している。	管理者と職員は共に、法人及び事業所の理念に沿ったサービスを提供し、利用者が笑顔で楽しく暮らせるよう支援しています。理念は各種会議で確認し合い、各自縮小版を携帯し、居間にも掲示して常に念頭に置いて利用者へと接しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤・退勤・散歩時などの挨拶を励行し、実施している。さくらの家のバザーや模擬店などの大きな行事には、地域の方々の協力を頂き、実施できている。	散歩時等日常的な触れ合いはもとより、事業所のバザー等の行事への協力やボランティアの来訪、中・高校生の職業体験の受入れ、家族介護教室等を通じて、良好な関係が築かれています。地域の福祉活動から立ち上がった志を継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や地域の方を対象に家族介護教室を開き、認知症介護の専門として、地域に知識を広げ、理解をして頂くだけでなく、介護や認知症の相談を受けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横須賀市の指示のもと、地域会議と事業所会議として、運営推進会議を実施している。地域会議では、事業所や市との連携・情報交換を実施している。事業所会議では、地域の方との意見交換を行い、そこで出たアイデアの防災訓練や夕涼み会を実施したりとサービスや地域との関係などの向上につなげている。	事業所からは活動状況や取り組み等の情報発信をし、委員の方とは意見交換の中で具体的な提案も出され、運営に活かされています。事業所での会議として年4回開催されています。今年からは年6回開催の意向を持っています。	地域住民が共通するため、法人内3事業所合同の開催が、地域委員の時間的負担軽減及び有意義で効率的な運営推進会議となるよう、行政へ積極的に働きかけていくことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当事業所の運営部長は、横須賀市グループホームの連絡協議会の顧問をしており、一番館の管理者は、副会長を務めており、長寿社会課との連携が取れている。	市、地域包括支援センター、地域8事業所による地域会議が年2回開催され、情報交換が行われています。当事業所の法人役員や管理者が役員をしている市グループホーム連絡協議会では、市と共催で事業を行う等協力関係が築かれています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、積極的に外部の研修や講習会に参加して、正しい理解に努めている。会議等で基準に関して、検討して、身体拘束のないケアを実施している。	行政の手引きと照らし合わせて自己チェックを行い、現状について振り返りをしています。職員の心得への記載、研修参加及び会議での報告等、本人のしたいことを抑えるのが拘束との認識を持ちながら、職員全員で自覚して取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての外部研修へ積極的に参加して、内容については、フロア会議で取り入れ現場の対応で問題がないか、常に確認している。虐待に関する自己チェックも実施して、理解できていない所を再確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括職員による、権利擁護についての勉強会を実施している。フロア会議でも取り上げ、フロアの職員にも制度について理解できるように取り組んでいる。成年後見制度については、活用せれているご利用者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約について、十分な説明を行った上で、一度自宅に持ち帰って頂き、入居までに不明な点等がないか確認して頂く様にしている。契約内容に納得頂いた上で署名をして頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を開催している。制度の改正や法人の方針などを報告して、その場で全体的な意見等を頂いける様にしている。ユニット毎に関する細かな意見については、懇親会形式で実施して、身近な意見やユニット独自の意見の吸い上げを行い、運営に生かしている。	家族会や行事、運営推進会議、日々の会話等にて意向を伺い反映させています。事業所及び法人総責任者、第三者委員、外部申し立て機関の明記・掲示、ご意見箱を置く等、要望や苦情を表せる機会を多数設けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人運営会議に管理者が参加して、フロア会議等が出た意見を提案できる場が設けられている。また、職員アンケートなども実施して、積極的に意見等を集約して、反映に努めサービスや働きやすい職場環境の向上に努めている。	全員参加が基本のフロア会議、職員アンケート実施、職員と管理者が日常的に自由に意見交換出来る環境により提案や要望が反映されています。事業所の提案は法人運営会議で伝えられ、法人全体としても運営やサービスの向上に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年法人の職員総会があり、管理者が職員の勤務の状況などから推薦した職員の表彰がある。新たな資格の取得者には、手当と表彰があり、正職員への昇格などの機会も得られるなど環境や条件が整備されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員からの自発的な希望に沿って研修に参加出来るようになっていく。レベルアップに必要な研修については、本部より要請があり、勉強の機会を与えて頂けてる。非常勤職員にも年1回以上の外部研修への参加の機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市には、グループホーム連絡協議会があり、研修会を実施している。その中で交流をもつ機会が得られている。他のグループホームの研修である、ターミナル研修にも参加させて頂いたりしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、事業所の特徴などの説明と本人様・ご家族様の困難や要望を聴いている。管理者が自宅へ訪問して、入居前から信頼関係の構築に努め、安心して利用して頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際には、ご家族様やご本人様と良く話をして、関係をつくり、ニーズなどを理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの電話や見学の時に、状況をお聴きして、困難などの理解に努め、必要に応じたアドバイスをする様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念として、入居者様が人生を楽しめる支援をしている。一緒に食事や買い物などをして、生活を共有している。若いころの話や知恵など沢山の事を教えて頂いたりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面・医療面共に家族を交えて、相談を行いながら、職員のみ意見だけではない様にしている。受診や行事なども参加して頂くなど共に支え合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の支援を行い、馴染みの関係が途切れない様にしている。面会も常に受け入れて、ゆっくと過ごして頂ける様にしている。	友だちや元同僚が来訪したり、本人も知人宅へ訪れています。年賀状や手紙のやり取り、電話の取り次ぎ等、入居前からの暮らしが継続出来るよう、家族の協力と共に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や行動などを把握して、摩擦やトラブルを未然に回避するようにしている。座席など工夫して、気の合う方との会話の機会を作っている。また、職員が入る事で孤立する事なく、誰もが楽しめる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方への面会やお葬式などに参加させて頂いたりして、関係が継続できる様にし、経過のフォローに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や家族からの情報から、思いや希望などを聴き、職員全員で把握に努めている。困難な方でも表情などから察して、思いに沿ってあげられる様している。会議で出来る事を見つけ支援につなげている	日々の会話や表情、家族の話しから想いを把握しています。散歩は1対1で行くことも多く、ゆっくりと話せる良い機会となっています。1日の様子を細かく記録に残し、各種会議等にて職員間で情報の共有をし、細やかな支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様との会話の中で昔の暮らし方や生まれた場所の環境などを聴いたりして、情報を集めている。家族様にも生活歴等を聴いたり、本人様との会話の中のやり取りを伝え、思い出して頂いたりする中から把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察をケースにとり、情報を集め、毎月のカンファレンス・フロア会議にて状況を把握して、本人様の力に合わせたケアを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する時には、家族の希望や本人様との会話などからの希望に沿って検討している。ドクターや看護師などにも相談して、様々な角度から検討して、その人らしい生活が送れる様にしている。	本人や家族の要望を聞き、アセスメント、ケアチェック、援助計画作成、カンファレンス、モニタリング・評価を実施して作成及び見直しをしています。職員はじめ必要な関係者で話し合い、一人ひとりに沿った支援が出来るよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践・結果気づき等は、個別の記録に記入している。記録をもとに会議を通して、介護計画の検討・見直しに活用している。日中は黒ペン・夜間は青ペン・医療は赤ペン・Nsは蛍光で囲むなどして見易さなどの工夫を行い、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス等を併設しており、デイの外出行事やイベントへの参加もしている。入浴サービスなど身体の重度などにも対応出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや自治会などとの交流が盛んな事から、お互いが顔見知りです散歩や喫茶店など安心して楽しむ事が出来ている。中学校などの職場体験などを受け入れる事での楽しみも得られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族の希望のかかりつけ医を基本にしている。心身の状況に変化等が見られる様ならば、かかりつけ医に相談して、紹介などの上で専門医へ納得の上で変更をして頂き、適切な医療が受けられる様にしている。	本人及び家族の希望に沿って、入居前からのかかりつけ医やホーム顧問医による受診をしています。各かかりつけ医は利用者に合わせて往診に来てくれます。緊急時にも各個人のかかりつけ医に相談しています。救急病院の手配もしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さくらの家全体を把握している看護職員を中心に健康面と医療面のケアをしている。連携が取れていることから、心身の安定や早期医療への対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族・Dr. とカンファレンスを行い、早期対応に向け、事業所で出来る対応を話し合い、早期退院出来るように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明に重度化・看取りに関してを具体的に明記して、事業所で出来る対応を明確にしている。地域医療とも協力して、ご家族の希望に沿う様にしている。	入居時には対応について説明し、入居後は本人の状況に合わせて関係者で話し合い、方針を共有して支援します。個々のかかりつけ医、ホーム顧問医及び看護師等、ホームと地域医療との連携も取れています。職員は研修を受けて備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者一人一人の緊急マニュアルを作成して、速やかに対応できるように工夫している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施している。1回目は消防署に依頼しての避難誘導・煙体験を実施。2回目は、夜間想定した訓練の実施。訓練毎に出た問題点を改善する様にして避難の方法を高めている。近隣の方とは、日常から交流を持ち、協力を得られる様にしている。	避難誘導、煙体験、ユニットの点検を消防署に依頼して行い、夜間を想定しての訓練も実施しています。毎月、消防チェック表を用いて点検しています。徒歩数分の法人本部に食料や飲料水を備蓄して災害に備えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重と人生の充実を理念としている。職員一人ひとりを大切にして、入居者様個人の性格に合った対応を心がけている。	利用者が楽しみを暮らしの中で見出せるように、自然に笑顔が出るように、その人に合った居場所や役割りを見い出して支援しています。言葉遣い等に留意し利用者の誇りを大切にして、職員もプロとしての誇りを持って介護力を発揮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物など本人様の希望を選択出来る場面を作った支援している。「～はどうされますか」の様に自己決定を促すような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間を設ける事無く自由にして頂いている。家事や散歩など希望を確認してから、支援している。ペースや希望を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ワンピース・スラッグスなど好みに馴染みの服装をして頂いている。理容では、美容師により、希望に沿った髪形にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を生かして、出来ること主体に、野菜切りなどの下準備や盛り付けなどして、食事の支度を一緒に行っている。一緒に準備した食事を職員も同じテーブルでとり、会話などして楽しみの幅が広げられる様に支援している。食後の、片付けも一緒に行っている。	フリーメニュー日を設けて利用者の希望を聞いて献立を立てたり、外食へ行く等、食事が楽しみとなるよう配慮しています。利用者の得意なことや力量によって準備や配膳、片付け等をしてもらっています。食事は職員と同席で会話も弾んでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた献立に沿って行っている。水分の不足がちの方には、プランを立て、個別の工夫を行っている。個別には、減塩・捕食・形態別・原料などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力により、声かけ・誘導・ケアなどに分けて、実施している。義歯を使用している方には、洗浄剤などの支援もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表などを用いて把握し、声かけ・定期的なトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めている。	個々の間隔や様子から排泄パターンを把握し、適切な誘導や声かけ等により、自立への支援をしています。各居室の隣にトイレがあるため、伝い歩きをして行けることも良い結果となっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理が必要な方には、排泄表をつけ、便秘の予防と繊維物や水分の摂取・運動など個別に対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	特に曜日や順番は決めず、ほぼ毎日行っている。特にゆっくりと入りたいなどの希望の方には、入浴の楽しみをケアプランとして個別に支援している。	回数や順番等、個々の希望や様子に合わせています。ゆっくり入りたい人には個別のケアプランとして支援し、ためらっている人には、気持ちを察しながら声かけをしています。浴室からは竹が植えられた庭が眺められ、良い雰囲気となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息を取って頂いている。食後の休憩など、体力などに合わせている。就寝時間は生活歴に合わせて、個々のタイミングで支援して、安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人別にファイリングしており、薬の確認を出来る様にしている。重要な薬等については、会議や申し送り簿等で効果・副作用などの説明をしている。内容に沿って全職員で変化などの観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割が見出せる様に、習字や漢字・料理・洗濯など得意としている事への場面づくりへの支援をしている。天気の良い日の散歩やコーヒーなどの嗜好品の提供など支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に協力をお願いして、外食や知人への訪問などをして頂き、希望に沿った支援をしている。買い物の機会や日頃の散歩などで戸外へ出られる機会を設けている。	散歩、外食、ショッピングセンターへの買い物、同法人のさくらの里旅行倶楽部企画の遠出や食事会の催し等、多くの外出の機会を作って支援しています。毎月同法人のホームで開かれる喫茶店へ出かけ、自分でお金を使い好きな物を買っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことは社会参加として大切なので、能力に応じてご自身で買い物をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って、電話をかけたり、受けた電話を本人に回す支援をしている。手紙も自由にやり取り出来る様にしている。必要に応じて代筆等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い共用空間の衛生面を整え不快のない様にしている。夏場の光などには、すだれを掛けるなどして、快適に過ごせる様な工夫をしている。季節の書道などを取り入れ、作品を飾るなどの工夫をしている。	居間には、絵や書が飾られ、いす・テーブルの配置も家庭のような雰囲気となっており、団欒出来るソファも置かれています。共用の空間は色調も穏やかです。床暖房、加湿器、除菌効果のあるエアコン等により健康に配慮した環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろげるソファがある。自由な席な為、テーブルを利用して、気の合った同士過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を自由に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂ける様にしている。家族様と相談し、安全なども良く考え、生活しやすい様にしている。	ダンス、家族の写真、仏壇等、馴染みの物や大切な物、好みの品々に囲まれて生活しています。各居室には、お湯の出る洗面台が備えられており、居心地よく過ごせる居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握して、家具等で導線の工夫を行い、車イスなどを使用しなくても生活できる様に支援している。部屋の入口に写真等を貼って自室の確認が出来る様にしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	同一地域に同法人の事業が3つあり、近隣が共通にも関わらず、同時での開催がみとめていない。地域の現状に合った会議の構成となっていないため、改善され、より有意義な会議となり、地域との密着もはかれると思われる。	行政へ働きかけ、現状の理解をして頂く。合同で行うことにより、より地域と密着した活動が出来る様に取り組んでいく。	事業会議に行政職員を招き、現状についてを構成員とともに、働きかけを行い理解をして頂く。地域との協力関係を見て頂き、有意義な会議となっている事を理解して頂ける様にしていく。	12ヶ月
2	18	ADLの差が入居者様同士が大きくなってきた事から、外出先での食事困難など見られてきている。その為、全員での外出行事が限られてしまっている。	年間の行事の中で、全員での外出行事とADLや好みよっての個別の行事と分けて計画して、全員が外出行事を楽しめる機会を持つことが出来るようにしていく。	毎月の会議を活用して、個々の行きたい場所や興味や関心などについてを把握して行き、企画につなげていく。ご家族様の協力や理解を頂き、楽しみを持って頂ける様に支援する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。